

# 教務だより

2013年3月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## そして、春、新しいこと考えよう！

茗溪塾塾長 宇野雅春

受験の季節が、いきなり終わりました。このいきなりというのは、唐突にという意味です。昨日まで、山積みの課題を抱え、焦ったり、苛立ったり、喘ぎ喘ぎ過ごしていたのが、一気に解消してしまう「あっけなさ」がそこにはあります。最後の県立高校の早朝激励、落ち着いた良い表情で生徒達は、校門の中に消えて行きました。これで早朝激励はおしまい！と思ったけれど、一月の中学入試から延べ17回に及ぶ早朝激励の最終日なのに達成感はさほどありませんでした。青く澄んだ空に、朝早くには鬱蒼と生い茂って見えた林の緑が、きらきらと輝きだして、「チョー気持ちいい！」って気分です。また一年の道のりがここからスタートします。

教室に戻ると東京の都立高校の発表が相次いでいました。これが過ぎれば、東京の教室は本当に全部が終了です。先生たちも朝から緊張して連絡を待っています。発表が午前9時といっても、なかなか連絡は来ず、結局全貌が判明したのは、夜の授業の時でした。

3年前に教えた生徒たちが、今は大学受験、私立大学の発表が相次ぎ最近では早慶の発表で嬉しいニュースもたくさん飛び込んできます。先日は、某駅前で、3年前高校受験だった生徒に遭遇、向こうから「覚えていますか？」と声をかけられました。ずーっと気にかけていた生徒だったけれど、本当に理想的に年齢を重ねて、中学時代の「勉強やりたくない！」ムードやワガママ風は消え、少し控え目な生まれ変わったA君です。これでは街ですれ違っても分かるはずもありません。A君とは生活圏が近く、近隣の高校生生の集団を見るたびにその中にA君たちがいるのではないかと思っていたのも、つい最近のことです。大学生として登場されるのは本当にびっくりです。突然のことで、あたふたと対応して、ここから先、また長い間、もしくは生涯会うこともなく過ぎてしまうかもしれない…なにか残念な気もしました。3年前、初めての授業の時、A君の「のり」に押されてやってしまった自己紹介がわりの「オリオン座体操」のことを思い出しました。最近、このオリオン座体操を初めて編み出した時（30年くらい前）の生徒がご父母となって登場したこともあり、その子供がいるクラスでは「オリオン座体操」コールが起こっています。天体の授業以外では絶対やらない！と「学習効果」を大切にしたい故、抵抗しています。

実は、昨年の次男の結婚式の二次会に親のビデオ紹介をするというので、次男の友達の元塾生（現在は公務員）がビデオ撮影に来ていましたが、思いっきり第1オリオン座体操から第3オリオン座体操まで披露してしまいました。…二次会での上映時に白けた冷笑の噂…花嫁の両親はローマ旅行の格調高い映像で、かなり格差があったと二次会に参加した別の息子が言っていました。やはり自重すべきであったということですね。

最近では高校生になっても引き続き茗溪塾に通う生徒が増えているので、小学校から大学受験まで長くいる生徒も珍しくありません。ちなみに今年の最後の早朝激励で県立高校と一緒に行ってくれた先生も、元塾生でした。大学受験後も今度は大人として、ともに働くこともあるというわけです。

県立の合格発表および国立大学の発表がありつつ新学期が始まっています。受験のことを抜きにしても、前へ進むための課題はたくさんあります。今年は公立高受験に今まで以上に力を注いだ結果、いつもより順調な印象ではあるけれど、不合格の生徒には、公立の入試倍率は年々厳しくなってきたことにもう少し早く気付いてほしかった、もっと何か出来たのではないかと、という申し訳なさが先に立ちます。

受験では「気づき」が合格を作ります。気づいてがんばっても「残念！」はあるけれど、それは必ず次につながります。生徒とこの大きな「共同作業」も生徒自身にとっては、人生のほんの1ページにすぎないかもしれません。

最近思うこと。与えているつもりで、与えられている。教えているつもりで教えられている。確かなことは生徒とともに苦楽をともし、そして喜びあえたこと…。同じ時代を同じように、辛いときも苦しいときも、未来に向けて「生きている」生徒とともにあることを独りよがりですが、「誇り」に思える…。それが私の幸運です。

いよいよ春です。振り返るだけでなく次のことを前向きに考えていこうと思います。